



社会教育

# アドバイザー通信

第 5 号

平成28年11月22日

発行 秋田県教育委員会

編集 南教育事務所

立冬も過ぎ、暦の上では冬を迎えました。山々の紅葉を楽しんだのもつかの間、鳥海山も裾野近くまで雪化粧し、来たるべき冬への心づもりが必要であることを伝えています。この秋は、市町村訪問や子育て講座等で多くの方々とお会いする機会があり、改めて社会教育の奥深さを感じることができました。第5号は、南管内での取組を紹介いたします。

## 学校・家庭・地域連携総合推進事業 9/27(火) 県南地区 第2回スキルアップ研修会 会場：浅舞公民館



今回の研修会には放課後児童クラブ関係者や放課後子ども教室関係者、わくわく土曜教室関係者の方々88名が参加し、グループ別研修と実技研修に臨みました。前半のグループ別研修では、これまでのアンケートで要望の多かった情報交換を取り入れ、日常の業務においてうまくいっていることを紹介し合いながら、悩みや課題等についても話し合いました。

後半は、「運動遊び」「オリジナルバック作り」「折り紙」「わりばし細工」「押し花しおり作り」の5つのグループに分かれて実技研修を行いました。参加者は、今後の活動プログラムの参考にしようと意欲的に取り組み、活動を楽しんでいました。



どのグループも積極的に話し合いが進められ、現状を少しでも改善したいという参加者の熱い思いが感じられました。他の人の実践を聞くことは自分の取組を振り返るよい機会となりますし、悩みを出し合うことは解決の糸口をつかむきっかけとなります。関係者の方々が自信をもって子どもたちと向き合うことができるよう、今後も研修の在り方を探っていきたいと思います。

あきた県庁出前講座No.161「家庭教育の充実」

## 「子育て講座」よい

10月は、各市町村の就学時健診に合わせて行われる「子育て講座」が目白押しでした。基本となるレジュメの中にそれぞれの小学校から出された要望を組み込み、子育てについて普段考えていることを中心に講話内容を考えました。テーマは、「子どもと一緒に成長しよう～子育てで大切なこと～」です。



絵本「おかあさん だいすきだよ」の読み聞かせでは、登場する母親の気持ちに共感している保護者の表情に、この絵本のもつ高いメッセージ性を感じました。また、子育てで大事にしたいこととして、5つの「あい」（愛する・EYE・I・出会い・関わりで生まれる合い）や「つ」のつく歳までの躰の他、感性を育み、伸びる芽を育てること等について話をしました。

平成28年度 子育て講座

- ◇ はじめに
- ◇ 絵本「おかあさん だいすきだよ」
- ◇ 「家族を笑顔にする10のヒント」
- ◇ 子育てで大事にしたいこと
- ◇ 小学校入学に向けて
- ◇ おわりに
- ♪ 親子で楽しむ手遊び歌



保護者にとって我が子の小学校入学は大きな節目であり、子育てを振り返る絶好の機会であると考えます。時間に追われ慌ただしい時期であっても、我が子からたくさんの喜びと感動をもらっていること、そして我が子のよさを認めながら自己有用感を高めることが子どもの生きる力につながるということを伝えました。子育ては親育てです。子どもの成長とともに親としての力量も伸ばすことができるよう、こうした機会をとらえて家庭教育の重要性を伝えていきたいと思ひます。

今回は、「子どもの主体的な関わり」についてです。

## ① 小さな役割から始めよう！ 家族みんなが一人一役



子どもには家族の一員として、成長に応じた役割をきちんと与え、任せてみましょう。まずは簡単なことから始めて、たくさんほめて、できることを少しずつ増やしてあげましょう。頼りにされると、子どもに自己有用感、責任感、自立心などが育ちます。

★ 子どもの責任感や自立心を育てるためには、家庭でのお手伝いが有効です。学校に入學すれば、当番活動や係活動がそれに当たります。まずは子どもの発達段階に合わせて簡単なことから挑戦させましょう。お手伝いの内容を決めるときは、子どもがやりたいことでできそうなことから始めるといいですね。できたときはたくさん褒め、その気にさせること、そして手伝ってもらってよかったとしっかり伝えることが大事です。一つできたらまた別の手伝いを決めて取り組ませ、できることを増やしていきましょう。

★ 子どもが新たなお手伝いに取り組むときは、教える側に時間と気持ちの余裕がなければなりません。子どもの様子を見守りながら、丁寧に教えましょう。練習していくうちに上手にできるようになったらしめたものです。できるようになったことは子どもに任せ、自分から進んで手伝うことができるよう、子どもを頼りにしましょう。お手伝いをまかせてもうまくいかないときには、失敗を叱るよりもできたところを褒めて、次はどうしたらできるようになるかを考えます。これが子どもの成長につながるポイントです。

### 文化芸術による子供の育成事業

## ♪ 体育館に響く歌声 ♪

「いつもの校歌と雰囲気が違う。同じ校歌なのに。」

幕開けで歌われた混声合唱に編曲された校歌を聴く子どもたちの表情からは、こんな心の声が聞こえてくるようでした。10月24日、「文化芸術による子供の育成事業」で羽後町立三輪小学校を訪問したのは、二期会合唱団の皆さんです。親しみやすい童謡からソリストたちによる独唱の他、オペラ「魔笛」のハイライトなど、変化に富んだ曲目と演奏形態で歌の魅力を伝えていました。



団員たちの華やかで厚みのある響き。身振りを付けて表情豊かに歌う姿。体育館は、コンサートホールにいるような心地よさに包まれていました。「みんなで歌おう」のコーナーでは、「世界中の子どもたちが」を手話を付けて歌い、音楽の楽しさを会場全体で共有していました。圧巻は、オペラ「魔笛」のステージです。ナレーターによる説明や登場人物それぞれの華やかな表現からは、オペラの魅力が十分伝わってきました。心が柔らかい時期に本物の芸術と出会うことで、子どもの五感研ぎ澄まされていくのでしょうか。今後もより多くの学校でこの事業を活用してほしいと思ったひとときでした。

### 東成瀬村「子育て支援」

## 孫育て講座 9/29

東成瀬村では、子育て支援チームが中心となって様々な子育て支援事業を展開しています。今年度、東成瀬小学校の孫育て講座に講師として参加する機会を得ました。

祖父母と子どもたちによる手遊びコーナーでは、歓声を上げながら手遊びを楽しんでいる姿が見られました。手遊びは幼少期に欠かすことのできない遊びの一つですが、祖父母の方々にもそのよさを体感していただくことができました。

後半は、「家族を笑顔にする10のヒント」を紹介しながら祖父母の役割や出番などにも触れ、家族が協力して子どもを育てていくことの大切さについて話をしました。会場にはPTA会員の方々も多く参加されていて、こうした行事に前向きに取り組む地域だからこそ、子どもの生活が安定しているのだと思いました。